

人権意識の高揚と
人権尊が尊重される社会の
実現をめざして

じんけん



戦争と人権侵害

ロシア政府によるウクライナ侵攻について、連日悲惨な情報が流れています。武力による無差別な侵攻は「基本的人権の尊重」を踏みにじる暴挙であり、許されることではありません。

一方で、日本国内に住むロシア人に対する誹謗中傷、嫌がらせなどが一部で問題となっていることをご存知でしょうか。「ロシア政府が悪いからロシア人は悪い」と考えるのは、偏見であり思い込みです。このような誹謗中傷や排除は、いたずらに対立をあおるだけで、問題の解決にはつながりません。不安や怒りなどを差別や偏見につなげることなく、良識ある言動をとりましょう。また様々な情報を得る中で、情報が本当に正しいのかと常に自問し、ショッキングな情報や誇大情報などに安易に流されないよう心がけましょう。

ビジネスと人権



企業の長時間労働や、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントなど、さまざまな差別に関わる問題が社会の注目を集めています。また、企業が自社の利益を優先することが原因で、環境破壊やそれに伴う健康被害、製品の偽装などさまざまな社会問題が発生し、私たちの生活に悪影響を及ぼすケースもあります。途上国での強制労働・児童労働、環境破壊などの事例も多数発生しています。このような状況を背景に、企業は環境・気候変動問題や人権尊重などに真剣に取り組み、さまざまな社会的責任について対応していくことが求められています。

企業が人権を尊重することの重要性は、国際的にも浸透しています。2011年（平成23年）、国連で、「ビジネスと人権に関する指導原則」が承認されました。企業自らが直接的に引き起こしている人権侵害だけでなく間接的に負の影響を与えていたり、関与したりしている人権侵害についても、対応する必要があるとしています。今後は調達から商品の販売・サービスの提供、廃棄・再利用までの一連の流れ（サプライチェーン＝供給連鎖）全体における人権に関するリスクの管理と適切な対応が求められます。



近年、企業活動における人権の尊重が注目されています。企業には、偏見や差別をなくし、互いの人権に配慮した行動をとることが求められています。企業活動は、従業員、消費者、取引先、株主・投資家、地域社会など、いろんなステークホルダー（利害関係者）と関わり合っています。企業活動を行う際には、これら全ての人の人権に配慮することが求められると同時に、人権に配慮しているかどうか、企業を評価する上で大きな要素となっています。実際に、多くの企業で「人権に関する取組」が行われています。

2015年（平成27年）の国連サミットにおいて、2030年（令和12年）までに、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」が策定されました。“SDGsの実現と人権の保護・促進は表裏一体の関係にある”とされており、SDGsと人権が密接な関係にあることを示しています。SDGsのテーマ「誰一人取り残さない」という考え方は、「基本的人権の尊重」の考え方と重なります。企業がSDGsに取り組む上でも、人権を尊重した行動を取ることが特に求められています。

政府や大企業だけではなく、中小企業、生活者・消費者や市民社会などの全ての主体が手を携えて、力強いパートナーシップ（協力関係）を構築していく必要があります。



2020年（令和2年）、「『ビジネスと人権』に関する行動計画（2020—2025）」が策定されました。企業が責任ある行動の促進を図ることで、SDGsで掲げられた「誰一人取り残さない」社会の実現につながるということについても期待されているのです。

第12回日出町人権フェスティバル(2021年) 作文の部(教育長賞)の紹介(1)

「いじめについて」

日出中学校1年(当時) 田辺 真衣 さん

私は、小学生のときに自分の学年でいじめがありました。よく、「小さいいじめ」とか、「大きいいじめ」とか、いじめを大きさで表現しますが、もし、いじめる立場が少人数でも、いじめられた人の心がどれだけ傷ついたのか、どれだけ苦しめられたのかで判断するべきだと思うので、いじめられた人がものすごく苦痛を感じたり、とても嫌だと思ったりしたなら私は、大きいいじめと言っていいと思います。実際に私の学年で起こったいじめは、私が大きさを判断してはいけないとは思いますが、長期間だったし、ものすごく苦痛だったと思います。

小学校四年生くらいからその人の悪口や外見のことが耳に入るようになってきていました。私は、その人に会えば話したりしました。同じクラスではなかったのですが、いつも話すわけではなかったのですが、悪口を言われていることに気づいているのか、どのように思っているのかとても聞きたかったです。でも、本人はすごく生き生きと会話してくれて、とても楽しそうでした。なので、結局悪口について聞くことはできませんでした。

小学五年生になってもそのいじめはなくなることがなく、少しだけ悪口が増えたような気もしました。そのときも、本人はどう思っているのか気になっていました。本人から言ってもらえたら、たくさんはげましてあげることができたけれど、楽しそうに会話している中で、急にいじめの話をするのは、当時の私にとってすごく勇気のいることでした。でも、本人から私に言うことは、もっと勇気のいることだと思うし、変に思われたとしても、少しでもその人の力になれば良かったと後悔しています。

そのいじめのことを先生に言ったのはその子本人で、その子のクラスでは話し合い、私のクラスでも話し合い、そして学年全体でも話し合いが行われました。そこでは先生にみんなで怒られて、反省の文をみんなで作りました。先生に言うということはすごく勇気があることだったと思うし、自分にも相談してほしかったと思います。そうすれば先生に言うまで一人で抱えることはなかったと思うし、少しでもその子の力になれば良かったと思っています。悪口を言っている人がいたら、注意もするようにしていましたが、なかなか止めてくれる人はいませんでした。たぶん、私に注意されたことを今でも覚えている人は、ほとんどいないと思います。

それからその子の悪口を耳にすることはなくなりました。それでも、少ししか行動することができなかった私と、見て見ぬふりをしていた友達、そして、悪口を言っていた友達はゆるすことができません。それと、先生に怒られてからしか行動できなかった、先生に怒られたからやめたかのようにすごく嫌です。自分で言ったのにも関わらず、自分でやめずに周りが静かになったからやめるというのは、だめだと思います。本人は本当に良かったのか分かりません。これは本当に解決なのか、分かりません。

いじめられた人は、もうその記憶を消すことはできないし、過去にいじめられたという傷は治ることはありません。また、いじめた人も悪口を言った人も、それをなかったことにすることはできません。いじめをしてはいけないということは決まっているので、「いじめをしません」と言うのはとても簡単なことです。理由は、心がなくても言ったり書いたりできるからです。いじめていない人が言ったのなら、言っただけではなく、行動しなければいけません。もう過去に誰かをいじめた人が言ったのなら、それは表面しかない反省の言葉です。どちらも行動をしなければなりません。しかしそれはとても難しいことです。

誰でも、色々な事や物、人に対して腹が立ったり、不満を持ったりすることはあります。そしてそれはいじめではないし、いけないことではない、しょうがない、あたりまえのことだと思います。でも、それを口にしたり、表に出したりしてしまったら、きっと誰かを傷つけることになると思います。

いじめをなくすためには、自分をコントロールして、人を思いやる心が大切だと思います。人を思いやる心があればその人がどう思うか考えることができると思うからです。そして、人を思いやる心は、誰にでもあると思います。人をいじめる人にもないわけではないと思います。でも、私が思うのは、人を思いやる心に加えて、それを実行する勇気も必要だと思っています。



令和2年度の文部科学省の調査では、小学生のいじめの認知件数は全国で約42万件にのぼり、年々増加しています。小学生の主ないじめは、

- ① 悪口や脅し、冷やかし
 - ② ぶつかると、叩く、蹴る
 - ③ 仲間外れや無視 があげられます。
- 高校生になると、
- ④ パソコンや携帯電話による誹謗中傷の割合が増えています。

子どもは初めての社会的な重圧を、ひとりで抱えている可能性があります。子どもが相談しやすい環境を、家庭や地域でつくるのが大切です。